



特集

ご存じですか？がんのこと…

日本の死因の第一位であるがん(悪性新生物)、早期発見・治療により、元気で過ごせる日々が長くなることがわかっています。

がんを予防、早期発見し健康な日々を過ごしましょう。

▶問合せ 健康福祉課健康係 ☎25-3285



『がん』にならないために

現在、日本人は一生の内、男性で65%、女性で51%の人が何らかの『がん』にかかると言われてます。『がん』は、すべての人にとって身近な病気になっています。

がんは、生活習慣・環境との間に深い関わりがみられています。禁煙、節酒、食生活、身体活動、適正体重の維持の5つの生活習慣の改善を行うことで、誰でもがん予防に取り組むことが出来ます。

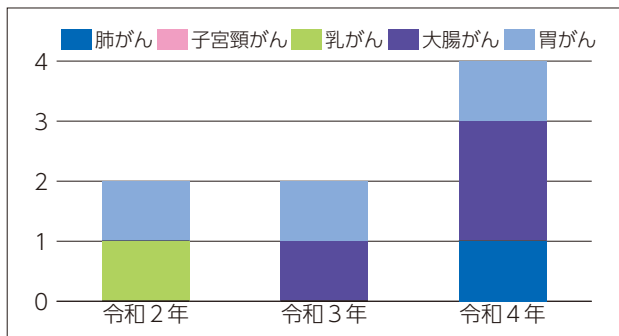
5つの健康習慣を実施することで、男性で43%、女性で37%『がん』になるリスクが下がると言われています(国立がんセンター推計)。できそうなことから取り組み、一つでも多くの健康習慣を身につけましょう。

『がん』検診で早期発見

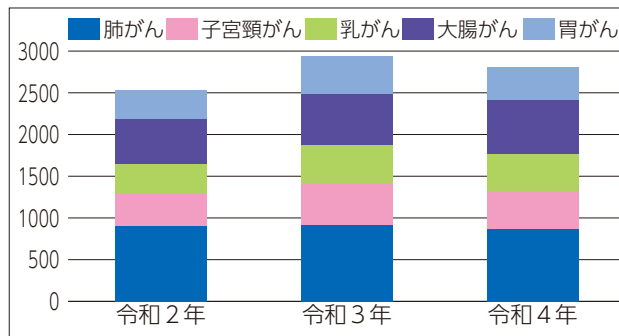
しかし、肝細胞がん、胃がん、子宮頸がんなど感染を原因とするがんもありますので、予防だけでは全てのがんを防ぐことができません。

そこで重要となるのが、がん検診です。がんを早期に発見し適切な治療を行うことによりがん死亡率を減らすことができます。

がん検診によるがん死亡率減少を目指すためには、科学的根拠のある検診を、適切な精度管理体制を整えた上で正しい、受診率を高く維持することが必要です。



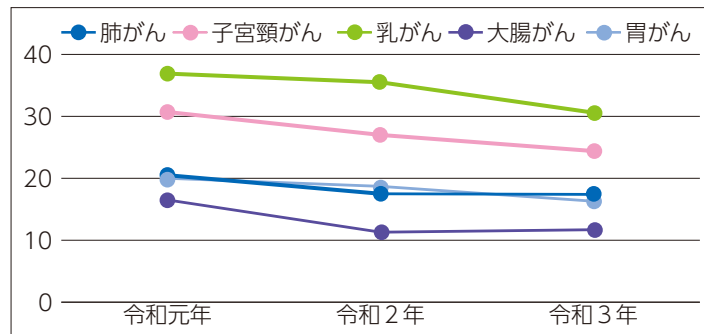
出典 昭和村事業実績報告



出典 昭和村事業実績報告

1位	がん(悪性新生物)	33.6%
2位	老衰	10.5%
3位	心疾患	8.4%
同率	脳血管疾患	8.4%

出典 群馬県保健福祉統計



出典 地域保健・健康増進事業報告

昭和村の現状

村では毎年、肺がん、子宮頸がん、乳がん、大腸がん、胃がんの5つのがん検診を行っています。

令和4年度中に行った5つのがん検診の合計は2,800件。その内、70件ほどが要精密検査と診断されています。精密検査を受けた人の内、3件ほどががんと診断されましたが、早期治療を受け、元気に生活しています。(図1: 図2)

がん検診の受診率に関しては、受診率が高い乳がん検診で30%、大腸がん検診などの低いものだと10%ほどとなっています。ここ3年間ほどは受診率が低下してきていますので、国の目標値である60%を目指していきたいと考えています。(図3)

健康的な生活のために

日本の死因の1位となっている『がん』。村でも死因の1位、およそ33%になっています。亡くなる方の3人に1人は『がん』が原因です。他の死因と比べても、およそ3倍もの差が開いています。(図4)

死因の1位となっている『がん』ですが、早期発見、早期治療をすることで、その後は、多くの人が健康的な生活を送ることが出来ます。

ぜひ、がん検診を受診し、早期発見に努め、健康的な生活を送れるようにしていきましょう。

村で受けられる

最新の補助事業

アピアランスケア 推進事業



がん患者やがん経験者のがん治療に伴う外見(アピアランス)の変化に伴う心理的負担を軽減するとともに社会参加を促進し、療養生活の質の向上を目的に、医療用ウィッグや補正具などの購入費の補助を開始します。

対象者

がん患者およびがん経験者で治療を受け、補正具の使用が必要な方

助成対象

- ①医療用ウィッグなど
- ②乳房補正具など

補助金額

- ①上限3万円
- ②上限1万円



若年がん患者 在宅療養支援事業

若年がん患者が住み慣れた自宅などで自分らしく自立して過ごせるよう、在宅療養生活の質が向上する支援を行うことにより、患者及びその家族の負担軽減を図ることを目的とします。

対象者

以下のすべてに該当する方

1. 昭和村に1年以上引き続き住所のある方
2. サービスの利用時に39歳以下の方
3. 他の公的支援制度を受けることができない方
4. 末期がん患者

補助金額

サービス利用料の9割

※ただし、上限額までとなります。上限額を超えた場合超過分は利用者負担になります。

サービス内容と助成上限額

対象サービス	0~19歳	20~39歳
訪問介護	5万円/月	8万円/月
訪問入浴介護		
福祉用具貸与	小児慢性特定疾病 日常生活用具給付 が利用できます	5万円/月
福祉用具購入		
介護支援専門員による事業所の紹介・調整等に係る費用	1万円/月	

受けてよかったがん検診 ~住民の方の声~



村の大腸がん検診から『がん』が発見され、治療を受けた方に検診との向き合い方を伺いました。

大腸がん検診は毎年受けていますか？

毎年、大腸がん検診を受けていましたが、コロナ禍でお休みをしたところ、その次の年「要精密検査」と診断されました。

何か事前症状はありましたか？

お腹が痛いなどは全くなかったのですが、今振り返ってみると、その年は便秘ぎみで検便の提出も大変だったことを思い出します。

精密検査と言われたときは？

とてもショックを受けましたが、すぐ主治医へ相談しました。先生が大腸カメラの予約を入れてくれて、二週間後には検査になりました。

大腸カメラは辛かったですか？

初めてでしたが、辛くなかったです。朝の9時に下剤を飲み始め、午後2時より検査でした。止血のための入院もありませんでした。

大腸がんと診断された後は？

大腸カメラで『がん』と診断され手術を決めました。発見された『がん』は小腸と大腸のつなぎ目にあり、開腹手術で20cmくらい切除しました。19日後に退院となりましたが、一年くらいはおかゆを食べました。その後、放射線治療は必要なく、今は便をゆるくするための薬を内服しています。

検診を考えている皆さんに向けて

私は、検診でがんを発見でき、早期治療ができました。大腸カメラも全然平気だったので、皆さんも怖がらずに受診してください。

保健師からのメッセージ



現在のがん罹患率は大腸がんが男性の第一位・女性の第二位です。

検診自体は簡単であるにも関わらず、受診者は減っています。未受診者の方に理由を伺うと、「私は大丈夫」「もし精密検査といわれたら大腸カメラが辛い」などの声が多く聞かれます。

早期に発見されると内視鏡での切除で済み、その後も一年に一度のフォローで経過をみる方も多い現状を知ってほしいです。